

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成20年1月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	今月の醤油出荷量は、久し振りに前年同月をやや上回った。その他として、原油及び諸原材料の高騰に伴い、業界では3、4月頃に価格改定の発表が相次いでいる。改定幅は、出荷価格の約11～15%となっている。
	パン・菓子製造業 (主にパン)	小麦の価格が高騰した影響で、価格に上乘せをしないと経営出来ない状況になっている。
	パン・菓子製造業 (主に菓子)	昨年は食品表示偽装事件が相次いだため、食品に対する消費者の信頼を失うことのないよう、適正な表示を徹底するための勉強会を積極的に開催するなど取組みを強化している。
繊維・同製品	織物業 (小松方面)	1月から4月にかけて、原糸、染料、副資材等の値上げの要求があり、今後の組合員企業の経営や組合運営に大きな不安を与えている。
	その他の織物業 (織マークの生産・加工)	絹分野では、受注ロットの減少、石油高による加工、流通コスト高により状況は悪化している。合繊分野では、少ロット受注、石油類高騰から生産関連がコストアップし、厳しい。
木材・木製品	製材業、木製品製造業 (能登方面)	売上高の増加は、昨年より開催市が多かったものである。雪の影響なのか出荷が少し減少した。
	製材業、木製品製造業 (加賀方面)	1月は、前年同月に比べ加工数が減少した。その他として、資材価格は、生産調整も取れたようで、下げ一辺等から当月後半より値戻しが出て来出した模様である。
	家具製造業	木材の価格は年々高騰している。高騰分は価格に転嫁されておらず、厳しい状況が続いている。
窯業・土石製品	粘土かわら製造業	売上は前年に比べて10%減少となった。その他として1月より重油やガスがさらに高騰したことにより、生産調整を実施することになった。
	陶磁器・同関連製品製造業	全体的に昨年同期とほぼ変わらない。その他として、メゾン&オブジェへの出展をはじめ、テーブルウェアフェスティバル、いしかわ伝統工芸フェアへの参加を決めた。
	砕石製造業	1月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比で生コン向け出荷が5.6%増、合材用アスファルト向けが4.7%減となり、全体では4.9%増となった。ただし、年度を通しての全出荷量は6.3%減と厳しい。
鉄鋼・金属	鉄素形材製造業 (鋳鉄鋳物の製造)	景況は比較的順調に推移してきたものの、生産は一服状態である。受注は引き合いがあるものの、価格をはじめ諸条件で厳しいものがあり、成約に結びつくのは難しい。一方、鑄造諸資材の値上がりは、鑄造価格に転嫁する暇もなく、一方的に決められてきており、ここに来て、主材料である鋳鉄、コークスの値上げ(1トンあたり1～2万円)が出て来ており、鑄造業界こそ対策を検討しているところである。
	鉄素形材製造業 (鋳鉄鋳物の製造・修理)	景況は順調に推移しているが、依然として原油高が続いている影響に加え、米国経済の不安定から生じると思われる国内大手企業の減速傾向など中小企業を取り巻く環境は今後楽観視出来ない。
	一般機械器具製造業	製造メーカーと下請協力工場では動きが少しずつきてきている。メーカー側からすると素材価格の変化は、売価はそんなに影響は見られないが、下請会社側では素材価格の影響が、即原価に大きく響いてくるためである。
一般機器	機械金属、機械器具の製造	主力の繊維機械関連の売上が、前年同月に比べ15%減となったが、建設機械関連は好調に維持しており、生産能力がフル活用されている。工作機械関連は、機種やメーカーによるマーケットの違いで若干の差はあるが、総合的にはほぼ変わり無い生産を続けている。その他として、銅やステンレスの価格は依然高水準であるが、これに加えて鋼材価格も上昇気配を見せており、コスト圧迫要因として要注意である。
	プレス、工作機械	当業界は依然として外需を中心とした好調な勢いに変化はない。しかし1月は稼働日も少なく、生産量の減少により売上も減少した。今年も外需を中心に国内の減少幅をカバーしていきたい。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	北米向けの輸出は、サブプライムローンの影響で極端に減少した。その他として、原油の高騰については、収益を圧迫しているが、何とか企業努力で対応している。
	繊維機械製造業	組合員の仕事量は、今のところまだ減少していないが、株価の大きな変動が、今後の実体経済、鉄工関係の仕事量にどのように影響してくるのか不安である。多くの企業が設備機械を増強し、人員も増やしている。
	機械、機械器具の製造又は加工修理	業界の先行きは不透明であり、心配である。
その他の製造業	漆器製造業 (加賀方面)	1～2月は春物商戦の展示会シーズンとなるが、組合員企業毎の市場特化や展示会の多様化に伴い山中漆器も様々な形態の展示会に出展がなされた。継続開催の展示会はほぼ昨年並みの成果と見られるが、傾向としては従来型の食器・陶器バイヤー中心の展示会から、ショップ系またはデザイナーや異業種との交流を試みた展示会が多くなり、また1月シーズンではなく5～6月シーズンの展示会に移行する企業など、新市場、新販路の開拓を目指した動きが多く見られた。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成20年1月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	景況は相変わらず良くない。
	農畜産物・水産物卸売業	年末・年始商戦はほぼ順調と考えられるが、売上高の減少は止まらず、加えてガソリン価格の高騰はコスト増につながり、経営はますます厳しい。
	一般機械器具卸売業	1月の住宅の着工数が前年比でマイナス19%となった。多少持ち直したように言われているが、下げ幅は今までどれだけ下がってもマイナス5~6%であった。業界は大変なことになっている。
小売業	百貨店・総合スーパー	1月は、前年に比べ全体で91.48%とマイナスで推移した。ファッション関連と服飾・貴金属関連が不調であった。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	昨年同様、積雪も見られず、また相変わらず大型店の販促攻勢が激しく、初売り状況及び全体的には昨年並みに推移した。その中で、寝具・厚手の肌着は前年をクリアしたものの、婦人、紳士、子供部分は若干低調し、トータル的には98.5%で推移した。
	鮮魚小売業	1月5日に初市が行われ、魚種、入荷量ともに豊富であったが、価格は安値であった。中旬、下旬も入荷量は多いものの売れ行きは今ひとつであった。
	米穀類小売業	我が業界は、不況と経営者の高齢化の影響により閉店が目立ち始めている。先行きが不安である。
	機械器具小売業	1月の地域店の伸びは、前年と変わらなかった。液晶・PDPテレビの台数出荷台数は遂に昨年比80%にダウンした。年末商戦後の中休みによるものと思われる。その他として、原油高の影響から、暖房用のルームエアコンが台数伸び130%と大きく伸び、単価も暖房用の為アップした為、テレビのダウンをカバーした。
	燃料小売業	暖冬と原油高騰による節約指向で暖房用燃料需要が不振である。その他として、ガソリン、灯油販売が不振で価格は次第に軟化した。
商店街	近江町市場	例年通り人出は少なめであった。
	尾張町商店街	天候だけをみれば、雪が降ってもお化粧程度のもので、特別に経済活動に支障があるほどのものではなかった。しかし、逆に冬物商品や、これらに関連した冬型製品といったものの伸び悩みにつながっていたように感じられる。人は動きやすかったけれども、物の動きはさっぱり止まってしまっていた。これから1月21日の大寒から、2月4日の立春までの間は、何も無い年でも寒さと雪がちらつき勝ちだけれども、それではもう遅すぎてしまう。こころの大寒が、今、商店街を覆っているというべきなのか。
	片町商店街	お正月明けに中心商店街一斉でスタートした初売りや、バーゲンセールには、北陸三県からのお客様でごった返し、記録的な賑わいを見せたが、バーゲンが終わった後の商店街は、昼夜とも閑古鳥状態の厳しい月であった。その他として、悪天候とガソリン高の影響か、駐車場の売上が減少した。
	豎町商店街	年始の初売りやバーゲンで一時的に売上が増加したものの、中旬以降からは良くなかった。
サービス業	旅館、ホテル(金沢方面)	原油価格の高騰と、その他関係商品の価格高騰などにより、先行きが不透明で大変危惧している。
	旅館、ホテル(加賀方面)	原油高騰が続き、仕入価格の高騰は旅館経営をもろに圧迫している。妥当な販売価格を維持したいが、需要は伸びず、旅館の供給過剰は競争を増し、強弱の状況から先行きが心配される。
	旅館、ホテル(能登方面)	新年会などの繁忙感はあるものの、前年同月に比べて96%と回復までには至っていない。その他として、輸入食品の事故により、国内産の食品価格がさらに高騰すると思われ、旅館経営がさらに厳しくなるものと思われる。
	自動車整備業	継続検査実績車輛数は、前年同月比0.1%増、前月比4.2%増となった。新規検査状況は、前年同月比0.7%減、前月比7.9%減となった。
建設業	一般土木建築工事業	石油価格の上昇による不安定化及び関連資材の仕入単価が高騰する反面、販売価格への転嫁が困難であり収益を圧迫している。また、公共事業の大幅な減少は受注競争の激化を招いており、最善を尽くしても利益の無い状況が依然として続いている。その他として、公共事業の削減や所得の伸び悩みと先行きの不透明感により、住宅の着工がまったく伸びない現状であり、苦しい経営環境を強いられている。
	板金・金物工事業	例年、年越しの仕事が残っているのに、不況のため手空きの状況にある。建築板金業界の景況は悪化している。
	室内装飾工事業	一般住宅産業に関わる組合員が多いため、売上高の減少並びに収益状況の悪化を申し出る組合員が多い。その他として、取引条件は不要としているものの、仕入材の一部値上げにより、悪化を申し出る組合員も増加している。業界の景況は徐々に悪化している。
	管工事業	前年同月に比べて工事件数は10%増加しているが、一年間を通してみると約20%減少している。大口の新設物件が落ち込んでいる影響によるものと思われる。
運輸業	一般貨物自動車運送業①	運輸業界は、軽油引取税の暫定税率部分の撤廃を望んでいるが、先行き不透明であり、価格の転嫁も進まず限界状況にある。
	一般貨物自動車運送業②	1月は中旬までは、まずまずの荷動きであったが、下旬は振るわず前年同月に比べ7%落ち込んだ。その他として、軽油価格は高止まりのまま据え置きで、相変わらず苦境に立たされている。